

第1次

第1時

本時の
目標

読む活動と書く活動の見通しをもって、学習計画を立てることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 説明文の学習を、書く活動につなげていくことを共有する。 2 教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習計画を立てる。 3 学習計画を確認し、次時以降の見通しをもつ。	「工芸品」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。 この単元では、説明文を読んで学んだことをいかして、書く活動を行っていきます。 「未来につながる工芸品」を読みます。疑問に思ったことや、興味をもったことを考えながら読みましょう。 筆者が伝えようとしていることを捉えて要約する力をつけるために、説明文の学習を行います。皆さんの「問い」を解決し、この力をつけるために、この後の四時間分の学習計画を立てましょう。 次回からは、この計画をいかして、説明文の学びを深めていきましょう。皆さんの問いが、すっきり解決するといいですね。	● 児童の実態により異なるが、家電やゲーム機を思い浮かべることもある。工業製品と異なり「手作業」で作られていることを、教材文から捉えられるようにする。また、物ではなく人や自分の経験を思い浮かべる児童もいる。その子ならではのエピソードは、ぜひ尊重したい。 ○ 「未来につながる」ってどういうことだろう。 ○ 南部鉄器って初めて聞いたから、詳しく知りたいな。 ○ この地域にも工芸品ってあるのかな。 ● 説明文の学習で問いが解決しない場合は、書く活動の中で解決できるようにしていく。 ● 児童の思い（問い）と教師の願い（目標）を擦り合わせながら、児童とともに学習計画を作成していく。自由進度的な学びとして、個によって別々の計画を立てることもできる。 ● これまでの学習経験から「初め・中・終わりに分けるよう」「筆者の伝えたいことを探そう。」といった提案が児童から挙がった場合は、それを計画に盛り込んでいく。

第2次

第2時

本時の
目標

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 筆者の伝えたいことは何かを考えながら読み、文章の構成を捉える。 2 読み取ったことを共有し、筆者の伝えたいことを捉える。	ここから四時間は説明文の学習です。文章をどんなまとまりで整理すると、分かりやすくなりますか。 早速、三つのまとまりに分けてみましょう。分けられた人は、それぞれのまとまりにどんなことが書いてあるのか考えてみましょう。 ○ここでの活動は、児童に自己決定を促すことができる。具体的には、まとまりや内容を捉えるために、「誰と」「どこで」「何を使って」「学ぶのかを自己決定できるように委ねていく。 どのように分けたのか、分けたまとまりにどんなことが書いてあるのか共有しましょう。 (共有を通して) では、筆者の伝えたいことは、どのようなことでしょうか。	●児童の分け方や捉え方が異なることが想定されるが、自己決定した活動の際に個々に関わり、どのような学びをつくっているのか把握できるとよい。また、異なる考えだったとしても、教師が「これ」とするのではなく、児童どうしの対話を通して、納得できるものを見いだせるようにしたい。 ●「初め・中・終わり」に分けると分かりやすいです。これまでの説明文の学習を想起できるようにする。 ●「初め」には、工芸品の説明が書いてあるよね。 ●「未来に残していきたい」という筆者の考えもあるよ。 ●「一つの理由は」というところから「中」が始まっていると思う。これって何の理由だろうね。 ●「このような理由から」という言葉は、これまでをまとめる言葉だよ。 ●「初め」には「未来の日本にのこしていきたい」と書いてあるけれど、「終わり」には「未来につないでいくこと」と書いてあるよ。これは同じことかな。

第2次

第3・4時

本時の
目標

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 まとまりごとに中心となる語や文を確かめる。	前回は、文章をまとまりごとに分けましたが、それぞれのまとまりから、中心となる語や文を見つけましょう。 ○「中心となる語や文」というものを児童が理解しやすい表現で伝えていきたい。 ○ここでも活動のしかたは自己決定できるようにする。また、まとまりに分けたり、要約したりするのは何のためか、適宜児童と共有するとよい。 皆さんが見つけた語や文を使って、この文章を要約しましょう。 要約すると、どんなよいことがあるでしょうか。 ○ここで要約する価値を実感できると、次の活動につながっていく。また、要約する目的も活動前に伝えられるとよい。	●要約を行うベースには個人差があるため、早く終わった児童がどのように他者と関わるかは、日頃から伝えておく必要がある。 ○「初め」に書いてある「工芸品」は、絶対必要だよ。 ○それぞれの段落からキーワードを見つけると分かりやすいよ。 ○題名にもなっている「未来につなぐ」は、中心となるものだよ。 ○似ている言葉は、一つだけでいいかな。それとも何度も出てきているから、全部大切にしたいほうがいいかな。 ●これらの反応例が、必ずしも児童から出てくるとは限らない。実態に応じて関わり方は変わるものだが、この反応例を児童への問いかけにしてもよい。 ○短くなつて分かりやすくなります。 ○どんなことが書いてあるのかが分かりやすく、頭の中がすっきりします。 ○人に話すときに、分かりやすく伝えられそうです。
2 それを用いて文章全体を要約する。		
3 要約するよさを共有する。		

第2次

第5時

本時の
目標

自分の立てた「問い」について、自分なりの考えを表現することができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 自分の立てた問いを想起する。 2 自分の立てた問いについて、自分なりの考えを表現する。 3 目標について振り返りを行う。	自分が最初に立てた問いは何でしたか。また、新たに立てた問いは何ですか。 その問いについて、今の自分がどう考えているか表現しましょう。 ○問いを基に自分と向き合うことを目的としている。そのため、児童が、問いの答えを表現しても、これまでのプロセスを表現しても、これからどうしたいかを表現してもよい。叙述から問いが生まれ、それが広がっていくことを尊重していきたい。 筆者が伝えようとしていることを捉えて要約する力をつけてほしいと目標を伝えました。この力がついたと思いますか。そう思った理由も書きましょう。	●第1時で立てた問いとともに、読み進める中で新たに生まれた問いがあれば、それも想起できるようにする。 ○私は、「未来につなぐってどういうことだろう。」という問いを立てました。読んでいく中で、文化や芸術、環境を未来につなぐということが分かりました。 ○私は、新たに「自分にできることは何だろう。」という問いを立てました。ですが、まだ問いの答えは見えていません。他の文章も読むなどして、もう少し考えたいと思います。 ○私は、筆者の伝えたいことを捉えることができたと思います。それは、文章をまとまりで分けていったときに、大切な文に気づいたからです。でも、要約する力は、ついていないと思います。なぜなら、○さんといっしょに考えて、なんとか要約できたからです。でも、要約がどういうことなのか分かってよかったです。

第3次

第6時

本時の 目標

相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを
選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にす
ることができる。

主な学習活動

1 説明文の学びを振り返り、書く活動の見通しをもつ。

主な発問・留意点

ここまでで、説明文を通してどんなことを学びましたか。

その学びをいかして、書く活動を五時間行います。教科書の56、57ページを見ましょう。皆さんは、何について伝えたいですか。

○ここで活動の見通しをもてるようにする。特に、何について書くのかを自己決定することは今後の意欲に大きく関わるため、自分が「知りたい」「伝えたい」と思えるものを選ぶようにする。

2 自分が決めた「テーマ」について調べ、分かったこと、考えたことを整理する。

テーマについて詳しく調べましょう。調べて分かったこと、そこから考えたことをメモしておきましょう。

○付箋や学習支援ソフトを活用し、メモを残せるようにする。また、そのメモを操作し、分類・整理できるようにする。

児童の反応・板書例

○まとまりに分けて考えることです。

○要約することです。

○筆者の伝えたいことを考えることです。

●工芸品についての本を用意したり、ウェブサイトを紹介したりして、いろいろな工芸品に触れる機会を設けておくと、ここで書きたいテーマを自己決定しやすい。

●教科書57、175ページの図を参考に、整理のしかたを学ぶこともできるとよい。特に、メモを分類した際にどんな仲間なのかを考えることは、具体を集めて抽象化を図るという重要な思考となる。

○私は、博多織について調べようと思います。理由は、おばあちゃんの家が博多にあり、気になっていたからです。博多織の歴史は……。博多織に関わる人は……。どんなときに使うかという……。。

●興味をもったのはなぜか、という思いや、調べて分かったことを基に考えたことなど、事実だけでなく自分らしさをメモできるとよい。

第3次

第7時

本時の
目標

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 自分が決めた「テーマ」について調べ、分かったこと、考えたことを整理する。 2 文章の構成について考える。 3 考えた構成を共有する。	○児童の活動のペースは異なるため、調べる児童、メモを整理する児童、整理したことを基に構成を考える児童、文章を書き始める児童が混在することが予想される。個のペースを尊重しながら、他者と学びをつくったり、教師が学びを支援したりして、書く楽しさを味わえるようにしたい。 整理したメモを基に、文章の組み立てを考えます。何をどのような順番で書けば、伝わりやすくなるでしょうか。 ○他者と協働的に学ぶ場面を設け、構成について考えられるようにする。 どんな組み立てで文章を書こうと思っているか、友達と共有しましょう。	●整理したメモをどの順番で書くのか、メモ以外に必要なことはあるかを考えると、構成を考えやすくなる。 ○説明文のように、「初め・中・終わり」に分けると伝わりやすくなると思うよ。 ○伝えたいことを最後に書いたら、心に残ると思う。 ○調べたことが三つあるので、それをどの順で書けばいいのかな。やっぱり、いちばん驚いたことを最後にとっておこうかな。 ●児童が、自分なりの意図をもって構成を考えられることが最も重要である。教師が用意したワークシートに構成を当てはめていく活動を実態によって行うこともあるが、ここでも自分らしさを尊重できるようにしたい。

第3次

第8～10時

本時の
目標

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 リーフレット作りを行う。	説明文での学び、調べたこと、考えた組み立てをい かして、リーフレット作りを行います。 ○リーフレットについて、第1時や第6時に紹介し ておくとよい。 ここから三時間でリーフレットを作ります。テーマ を自分で決めましたが、誰と書くのか、どんな方法 で書くのかも自分で決めましょう。また、三時間を どう使うのかも自分で決めて書いていきましょう。 ○書く活動が始まったら、教師は児童との対話を心 がける。特に一対一の関わりを設け、児童を見取っ ていく。その際は、判断して声をかけるのではなく、 観察し想像し問いかけることを念頭におく。 「こうなつてほしい」という願いをもちながら、「そ の子らしさ」を尊重することを大切にしたい。（本 案P10参照）	●これまでの経験が児童の自己決定を支えている。自 己決定の幅を広げるために、教師が例示をすること も大切である。 ○私は、同じテーマの○○さんといっしょに書きたい から声をかけてみよう。 ○私は、じっくり書きたいから一人で書こう。でも、 次の時間は○○さんに読んでもらいたいな。 ○リーフレットを画用紙で作ろう。そこに自分のテー マの「和紙」を貼り付けて、読む人に触ってもらおう。 ○写真を使いたいから、タブレットを使って書こう。 ○伝えたいことが伝わるか確かめたいから、次の時間 の終わりに○○さんに読んでもらおう。その後で、 説明の順番を入れ替えるかもしれないから、パソコ ンで下書きをしておこう。 ○今日は、「初め」と「終わり」を書きました。中を どの順番で書くか迷っているの、次の時間に決め たいと思います。
2 この時間に何をした たのか、次に何をす るのかを振り返る。		

第4次

第11時

本時の
目標

書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
1 書いたリーフレットを共有する。 2 友達の感想を読み、自分の感想も書く。	共有のしかたを確認しましょう。 ① 机を口の字型に並べます。 ② 自分のリーフレットと、友達からの感想用紙を机の上に置きます。 ③ できるだけ多くの人のリーフレットを読んで感想を書きます。 このように共有を行います。感想を書くときのポイントは何でしょうか。 友達からもらった感想を読みましょう。そして、「うれしい」「確かに」「次はこうしよう。」といった、自分の気持ちや考えも書きましょう。	● 児童の実態、学級の人数によって共有の方法は異なるが、より多くの感想をもらうことは共有の醍醐味である。今回は、少しでも多くの児童が読むことができるよう、自由に手に取って読む方法を示した。 ● 「友達のリーフレットのいいところを書きます。」 「いいところとは？」 「伝えたいことが伝わったよ。」とか、「調べたことが分かりやすいよ。」とかです。 「写真があって分かりやすいのかもいいです。」 「文章の組み立てのことでもいいと思います。」 「もっとよくなるためのアドバイスも書けるかな。」 ● 「うれしい」「よかった」などの気持ちだけを書いている児童には、どこからそう思ったのかを書けるよう関わっていきたい。

第4次

第12時

本時の
目標

この単元の学びを通して、自分のよりよくなったところに気づくことができる。

主な学習活動

1 教科書、リーフレット、感想用紙を読み、単元の学びを振り返る。

主な発問・留意点

説明文、リーフレット、友達感想から、多くのことを学んだと思います。今回の学びを通して、自分がどのように成長したのかを振り返ってみましょう。振り返った人は、これからどうしたいのかも書きましょう。

○情報収集を通して、必要な知識や情報を得るためには、読書が役立つことも確認しておきたい。

2 振り返りを共有する。
皆さんの振り返りを共有しましょう。共有を通して、さらに振り返り書いてもいいですよ。

○書き終えた児童どうし共有する、学習支援ソフトを使って共有する、特に紹介したい児童の振り返りを全体で共有するなどの方法が考えられる。一人で振り返る時間と、他者と振り返る時間の両方を設定するとよい。

○この単元以降も、文章を書く場面は多々あるため、学んだことを想起できるよう教師が単元や教科を超えたつながりを意識したい。

児童の反応・板書例

◎私は、文章を要約する力がついたと思います。要約すると文章の内容が分かりやすくなるし、自分で文章を書くときにも役立つと思いました。でも、リーフレット作りは大変だったので、筆者の書いた説明文はすごいなあと思いました。今度、係活動で勧めのアニメを紹介するので、リーフレット作りで学んだことをいかしたいです。

●振り返りでは、自分との対話を大切にしたい。いっぱい、振り返りは「自己評価の感度を高める」ことを目的としている。これができた、これができなかったなどを自覚し、自分らしさを発見する取り組みでもある。成長したことを振り返りながらも、今の自分、本音の自分を振り返ることができるように、年間を通して児童と教師の関係を築いていくことが望ましい。

資料

児童と教師の対話の例

調べたことを書いている児童 ※インターネットの情報を コピーアンドペーストす る児童も多い。そこに 自分の考えを加えること を、対話を通して気づけ るようにしたい。	書き終えた児童 ※終わったと思った児童が、 また書きだすとは限らな い。視点を変える活動を 示し、学びに向かえるよ うにしたい。その際は、 「あなたのことを見守っ ているよ」ということが、 言葉と行動から伝わるよ うにしたい。
T 今は何を書いているのかな。 C 自分が調べた南部鉄器のことを書いています。 T どんなことを書くかと思っているのか、詳しく教えてくれる。 C 南部鉄器の形とか、どんなときに使うのかとか、どこで作られているのかとかです。 T とても詳しく調べたんだね。○○さんは、南部鉄器のことをどう思っているのかな。 C なんか見た目がカッコいいなって思いました。ここのごつごつしているところとか、恐竜みたいです。 T それは、○○さんらしい考えだね。それはどこに書く予定なの。 C ううん。まだ考えていませんでした。 T それなら、説明文を参考にして、筆者がどこに伝えたいことを書いていたか確かめてみるといいかもしれないね。 T □□さんは、もう書けたのかな。 C はい。全部終わりました。 T じゃあ、残り一時間は、どんなことをする予定なの。 C …… T 先生のアイデアを四つ伝えるので、その中から選んでみようか。もちろん自分で思いついたことをやってもいいよ。 一つ目、このリーフレットの「中」に書いてある情報を増やす。二つ目、リーフレットに、おまけのページを作る。 三つ目、新しいリーフレットを作る。四つ目、友達のリフレットにアドバイスする。何か質問はあるかな。先生は、 他の人ともお話ししてから□□さんのところにまた来るから、そのときに教えてね。 T (□□さんの様子をうかがいながら、他の児童とも対話する。) T どう、決まったかな。 C おまけページを作ろうと思います。 T どんなおまけにするのかな。 C リーフレットを読んだ人じゃないと分からないクイズを作ります。 T それは先生もやってみたいな。書けたらぜひ教えてね。	

子どもが自己決定できるように委ねること

今回の案では、第6時でテーマを自己決定している。他にも「誰と学ぶのか」といった自己決定も行っている。そもそもなぜ自己決定ができるように委ねていくのか。それは、子どもたちのモチベーションを上げるために他ならない。当然、人が決めたものより自分で決めたもののほうが効果的である。ここで、①方法、②相手、③時間、④課題を自己決定できるよう、さらに子どもたちに委ねていく方法を紹介する。

①方法の自己決定

教科書には「リーフレット」という方法が示されている。本単元案の中では、そのリーフレットをどのような方法で作るかを示した。しかし、何かを伝える方法はリーフレットだけとは限らない。これまでの単元、他教科、生活の中で児童は多様な方法に触れてきている。それらを共有し、自分が伝えやすい方法を自己決定することもできる。

②相手の自己決定

これは、本単元案の中でも多く示している。読む場面、書く場面、振り返る場面と、協働的に学ぶ場面は多い。教師が意図的に組んだグループで学ぶ場面も必要だが、「あの子に相談したい」「あの子なら考えを伝えられる」「今は一人で考えたい」といった児童の思いから、学ぶ相手を自己決定することは、生涯にわたって求められるものである。

③時間の自己決定

本単元案では、計画一時間、読むこと四時間、書くこと

五時間、共有と振り返り二時間という時間を設定した。特に書くことの後半三時間は、時間をどう使うのかを自己決定できるようにした。一単位時間の中の二十分を委ねる。単元の中の三時間を委ねる。単元の計画と振り返り以外を委ねる。教師のねらいが明確であるなら、自由進度的に時間を自己決定できるようにすることは、個の進度を尊重することになり、よりよい学びにつながるといえる。

④課題の自己決定

本単元案の課題の自己決定は、読むことにおける「問い」を立てたこと、書くことにおける「テーマ」を決めたことである。教師のねらい＝課題ではない。教師のねらいと、児童の「知りたい」「やりたい」「学びたい」という思いを擦り合わせたもの（包括したもの、兼ねるもの等）が課題である。もし、「伝統工芸」ではなく、「未来につなぎたいもの」という課題を児童が望むならば、アニメやゲーム、料理などテーマの幅が広がっていったらう。これが児童から発信されたなら、ぜひ取り入れていきたい。「教科書に書いていない」とは思わずに、教師のねらいと児童の思いの両方をクリアできるテーマになる、と捉えてほしい。

今回の教科書は、冒頭「国語の学びを見わたそう」にあるように、国語の指導事項のみならず、学び方を学ぶことができるものである。それは教師が与えるのではなく、子どもが学び取っていくものである。だからこそ、子どもを信じて、委ねて、支える覚悟で、授業に臨みたいと思う。